

令和 7 年度第 1 回八潮市総合教育会議 議 事 録

開催日時	令和 7 年 6 月 2 0 日（金） 午後 4 時から午後 4 時 5 0 分まで	開催場所	八潮市役所 大会議室
出席者 (敬称略)	(市 長) 大 山 忍 (教 育 長) 井 上 正 人 (教育長職務代理者) 加 藤 正 道 (教 育 委 員) 木 下 史 江 (教 育 委 員) 高 橋 洋 一 (教 育 委 員) 橋 本 珠 美		
欠席者 (敬称略)	なし	傍聴者数	5 人
審議内容及び 審議結果の 概要	令和 7 年度第 1 回八潮市総合教育会議 1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 新設小学校の校名(案)について 4 閉会		
提供資料	令和 7 年度第 1 回八潮市総合教育会議 次第 資料		
事務局	企画財政部長 柳澤 徹 企画財政部理事 菊池 俊充 企画財政部副部長兼企画経営課長 峯 孝貴 企画財政部企画経営課主幹 峯村 太郎 企画財政部企画経営課副主幹 池淵 浩一 企画財政部企画経営課主査 青山 琴美 企画財政部企画経営課主事 二宮 英美子	教 育 部 長 千葉 靖志 教 育 部 理 事 猪原 誠一 教育部副部長兼社会教育課長 倉林 昌也 教育部副部長兼学務課長 山内 修 教 育 部 教 育 総 務 課 長 松本 啓介 教育部新設小学校準備室長 柳町 貴栄 教育部新設小学校準備室主幹 古川 剛 教育部新設小学校準備室主事 浦野 哲宏	

1 開会

2 挨拶

(市長挨拶)

(教育長挨拶)

3 議事

(1) 新設小学校の校名(案)について

発言者	発言内容
事務局	新設小学校の校名(案)について 新設小学校の校名の選定に係る経緯等について説明
司会	教育委員会として、審議会の答申を踏まえ、どのようなお考えをもって校名を決定されたのかご説明いただきたい。
委員	アンケートの中にもあったように、票を入れた子どもたちの意見は大変大きいと思う。アンケートの中で「花桃」の校名案に対する票が一番多く、また審議会の中でも2回投票が行われ、その中でも「花桃」への票が一番多かった。「花桃小学校」という校名は、きちんと子どもたちの意見も汲み取られており、新設小学校の校名に相応しいと思う。
委員	審議会では、たくさんの応募の中から4つの校名案を選んでいる。私はシンプルに地域の名前になるかと思っていた。「花桃小学校」という校名を聞いて、場所は分からなくても、校名が定着してくればいいのではないかなと思う。説明を聞いて、審議会の審議方法は丁寧で、子どもたちからも一番多い意見を選んでおり良い校名だと思う。
委員	花桃は市の花として指定されている。花桃といえば八潮市となるくらい地域の皆さんに定着していると思う。新たな小中一貫教育のモデルとなることから、新設小学校の校名としては、市民の皆さんにも親しみやすい、また認知度もある「花桃小学校」は良い校名だと思う。
委員	先ほどの定例会での説明を受けた際、審議会では様々意見を交わして、校名選定を進めてきた、ということがよく分かった。 またこどもまんなか社会として、子どもたちが直接、自分に関わる小学校の名前に関するアンケートに応募して、関わったということが良かったのではないかなと思っている。応募者が「花桃」を選んだ理由に「子どもたちの個性が咲き誇って、努力が実を結んでほしい」といった意見もあり、「花桃」というと、未来に対する期待やとても明るいイメージを持った。

教育長	国では、令和5年4月に施行されたこども基本法において、こどもまんなか社会の実現を目指している。他の委員からも意見があったとおり、子どもたちの意見はとても重要だと考えている。子どもたちも、審議会の委員も、「花桃」が良いと選んでいるため、校名に相応しいと考える。 八潮の教育といえば小中一貫教育であり、20年前から実施している。当初は全国的にも珍しく視察が多く来ることもあった。八潮市は、小学校と中学校が別々の場所にあるが、お互いの学校の教員が協力しながら、この小中一貫教育を進めてきた。その中で潮止中学校の隣に開校予定の新設小学校は、併設型の小中一貫教育を行う場として、八潮市の小中一貫教育をさらに進めていくモデル校になると大変期待をしている。 審議会の皆様からも附帯意見として、小中一貫教育を中心にとということが示されている。八潮市の小中一貫教育は、今年で20年目を迎える。市全体をイメージする「花桃」は、新たな一歩を踏み出す新設小学校の校名に相応しいと感じている。 先ほどの定例会でも、知り合いとの会話で新設小学校の校名案が「花桃小学校」であることを話したら、八潮の学校であると認識していたようなので、地域限定の校名ではないが、八潮市という大きな視点で見れば、親しみを感ぜられる校名になっている。
委員	今までの学校は地域の中で愛される学校という印象が強かったが、今度は八潮のモデルとなる学校になると思う。
教育長	審議会委員に潮止中に通う生徒と小学校高学年、低学年の児童を養育する保護者がおり、校名のアンケートに回答する際、子どもたちが、一生懸命考えたそうである。特に一番下の子どもは自分が通う学校だからより我がこととして考えたようである。 小さな頭と心を震わせながら一生懸命考えて票を投じたと言っていた。そんな子ども一人一人の思いを大切にしていくことは大変重要であると感じている。
市長	子ども基本法の施行もあり、本市もこども計画を策定し、子どもたちの社会を有意義な社会にしていくために、これからさまざまな施策を行っていく。そのような中で、4つの候補案の中から、多くの児童生徒の意見を取りまとめていただいたことは、子どもたちにとっても非常に良いことだと思う。 一方で、4つの候補案から1つを選ぶということは、選ばれなかった名前があり、その名前に投票した子どもたちもいる。子どもたちの意見をどのように議論して決まったのかを、子どもたちにフィードバックし

	てあげないといけない。聞くだけでなく、今回この校名に決まり、最後はどのようにして形に移していくのかによって、今後自分たちの社会の問題について積極的に参加していこうと思ってもらえる話になってくる。子どもたちへのフィードバックの仕方について聞きたい。
教育長	児童生徒アンケートの結果については、アンケートに協力してくれた、大曾根小、大瀬小、潮止中の保護者宛てにメールで報告している。 児童生徒には、保護者を通じて結果が伝わっていると認識している。自分たちが行ったアンケートが校名の決定に繋がったという実感に繋がればいいと考えている。 一般には、令和7年2月に作成した、「新設小学校開設準備だより」にアンケートの結果を掲載し、ホームページで公表している。 今後、議会を経て正式に校名が決まった際には、市民をはじめ、関係する児童生徒及びその保護者に改めて報告したいと考えている。 また、教育委員会の定例会で今回選ばれなかった残りの3つの校名案「茜」、「圀」、「八潮」については、別の活用方法を検討するように附帯意見を付けた。そのため、準備委員会において、今後、検討していく。
市長	冒頭にも申し上げたが、学校教育は、地域と学校と保護者が三位一体となって進めていくことが必要であり、そのためには新しい学校ができるにあたって、地域の皆さんのご理解が不可欠だと思う。地域からも愛される学校にしていくために今後どのように考えていき名称を広めていくのかをお聞きしたい。
委員	建設現場の近くである圀町会の住民の中でも、市内には地名が入っていない学校もあるので、あえて圀小学校でなくてもいいのではという意見はたくさんあった。「花桃小学校」という名称に関しては、町会の中でも理解があることと思っている。 どの小学校や中学校においてもそうであるが、定着していくためにはそれなりの時間が必要だと思う。新設小学校は八潮市の中でも大きな目玉になる。いかに地域住民が学校に関心をもって注目してくれるかというところだと思う。しっかり市民にアピールをしていただければ、圀町会も含めた地域住民も、様々な形で協力してくれると思うので、そこから定着・愛着に繋がっていくと思う。
市長	先ほど教育長からも、新設小学校は潮止中学校に併設した市内初の施設で、新たな一步を踏み出すモデル校である、との話があった。子どもたちや保護者、地域の方々のためにも、新設小学校や併設する中学校、近隣の学校も含めて、どのようなモデル校を目指していくのか、そのあたりの考があればお聞きしたい。

委員	これまでの八潮の小中一貫教育は、小中分離型だったため、できることが限られていた。 しかしながら、今回は併設型の学校ができる。保護者の方にも小中一貫教育は根付いており、併設型になったらできることはさらにあると思っており、とても期待している。 新設校がモデル校となって、併設型の小中一貫教育にさらに力を入れて取り組むことで、市内に広がっていくような未来が見える。本当に明るい一歩だと思っているので、こういう取り組みをしているということ、市民の方や保護者の方にも知っていただきたいし、子どもの意見も是非聞きたい。 隣の中学校にいて、休み時間に中学生と遊んだり、併設型だからこその取り組みということ、色々なところから意見を聞いて、それを発信していき、市内外から見学に来ていただいて、小中一貫教育といったら八潮市と言ってもらえたらいいと思う。
委員	新設小学校がモデルケースになることはいいと思う。他の学校も同じようにやりたい気持ちもあるだろうが、場所の関係等もあり、なかなか難しいのが現状である。 特に北部の方は子どもの数が減っているため、過去に同様の検討をしていたこともあった。環境や設備面の問題もあり、実現しなかったが、そういう点がクリアになるのであれば、新設小学校と同じようにしたいという話も出てくると思う。
委員	審議員の方々も新設小学校についてはしっかりと協議していただいていると思う。4人の町会長の方々と大曾根小学校、大瀬小学校、潮止中学校の校長先生、学校運営協議会のPTAの方々も含め皆様で選出した校名であるので、子どもたちもとても喜ぶと思う。 また、併設型ということであれば、お手本になるような高学年だったり、それを見て育つ低学年がいたり、学びの場を明るく、一貫して開かれた学校であれば、保護者として子どもたちが明るく登校してくれたら良いと思う。
司会	ご説明いただいた校名案については、ご了解いただいたということでよろしいか。
委員	これからこの学校に子どもを通わせる保護者にお会いした。どこの学校なのかと聞いたところ新設校に子どもを通わせる、楽しみにしていると云われた。楽しみにしててください、すごくきれいな学校ですと保護者に伝えた。本当に地域から愛される学校であってほしいと思う。
教育長	併設型の学校というのは、小学生のすぐ近くに中学生がいて、小学生にとって中学生は憧れの存在になると思う。つまり活きた手本が毎日目

	に触れることができ、それが大きい。また中学生にとっては、目の前に自分たちが守ってあげないといけない、導いてあげないといけないという心を育てる面でもとても大切である。 八潮市では予算を組み、毎年教員を秋田県の小坂町まで派遣している。秋田県小坂町はかつて八潮市が小中一貫教育を始めたときに、ぜひ参考にさせていただきたいと視察に来た。小坂町は、現在、人口減少などの理由で小中一貫校を建てて、小中一貫教育に取り組んでいる。小学校と中学校が一緒になると教育課程の中でいろいろな工夫ができる。新設校でも取り組みを積み重ねることで、50年後100年後の八潮の教育が、子どもたちの人口減少によってどうなるかを考えた時に、モデルになってくると思う。オール八潮という観点でいけば、「花桃」という校名は相応しいと思う。
司会	最後に市長と教育長から挨拶をお願いします。
市長	率直な意見交換ができたことを大変嬉しく思う。新設小学校については、地域にとっても八潮市にとっても、大きな意味のある学校であり、それぞれの期待が非常に大きいものだと思っている。今後校章や校歌といった附帯設備も含めて議論する部分が出てくる。引き続きよろしくお願いしたい。 地域の皆さんにとってもご心配は多々あると思うが、新しい学校というのは市を代表する、今までの学校とはまた違うステージの学校という位置づけで考えていく必要がある。今後も非常に関心が高い事柄が続くので、是非地域の皆様、保護者の皆様、そして子どもたちにも丁寧にご説明いただきたい。我々もご理解いただくように頑張っていきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。
教育長	今回の議論で、市長はじめ行政の方々にも、校名が決まる経緯等をご理解いただけたと思っている。物事を進めるためには、教育委員会だけでは進められないし、行政の方々に理解していただきながら協力してやっていくことが必要と考えている。市長部局と教育委員会が一緒になって様々な議論をして、お互いを補いながら、よりよい教育を進められることがいいと思う。

4 閉会